

平成 30 年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：小樽市
- 2 事例報告学校名：小樽市立稲穂小学校
- 3 報告者：校長 田中 賢一
- 4 キーワード：包括的な学校改善に向けた組織的な取組

1 はじめに

小樽市立稲穂小学校は、小樽駅や小樽運河を校区に有し、学校の教育目標「りこうで たっしやで ほがらかな 稲穂の子」を目指す開校 123 年の学校である。平成 25 年度から道教委の事業「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校として、包括的な学校改善に努めてきた。

今年度は、北海道や小樽市の教育施策に基づき、根拠のある教育活動の充実を図るとともに、コミュニティ・スクールを導入し、地域とともにある学校づくりを目指して家庭・地域と連携・協働を進めている。



2 特色ある教育～地域との連携・協働を深めた取組～

これまで、学校改善に努めてきたところであるが、加えて、学校・家庭・地域において、子育てに関する共通目標を掲げ、子どもたちの成長を支える教育活動を進めている。

(1) 共通目標の作成

学校と家庭・地域が一体となって子どもを育むためには、多くの人々が知る学校の教育目標を、改めて具体的な子どもの姿として表し、分かりやすい共通目標を設定する必要性があった。

そこで、「りこう」、「ほがらか」、「たっしや」に分けて、各学年の発達の段階や学期ごとの短い期間で、目指す子どもの姿を整理し、「稲穂小キャリアパスポート」と名付けた。

【稲穂小キャリアパスポート】(抜粋)

	りこう 学び方	ほがらか 人間関係・社会性	たっしや 運動習慣・生活習慣
重点 具体的に 目指す姿	○ねばり強く最後まで考える。 ○先生や友達の話をよく聞く。 ○ほかの人の話の内容と自分の考えを結び付ける。	○いつでも相手の気持ちを考えて行動する。 ○自分やほかの人のよいところを進んで見付ける。 ○良い行動を考え進んで取り組む。	○楽しくからだを動かして健康に気を付ける。 ○命を大切にし、安全に気を付けて元気に過ごす。
6 年	①学習課題を設定し、目的意識をもって多様な解決方法を考える。 ②探究的に様々な考えの関連性を把握して学び合う。 ③多くの考えを理解し、自分の考えを広げたり、深めたりする。	①自分と友達の将来を見つめ、相手の思いや考えを尊重し、高め合う態度を身に付ける。 ②全体が向上するために、自分の役割や責任を自覚し、状況判断して最もよい行動を選択する。	①運動の大切さを知り、進んで体力向上を目指す運動習慣を身に付ける。 ②健康・安全な生活を心がけ、よりよい生活習慣を身に付ける。
3 学期	○学び合いを通して、友達の良い考えを取り入れて、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	○自分と友達の将来を見つめ、互いの思いや考えを尊重し、認め合う。	○健康・安全な生活を心がけ、よりよい生活習慣を身に付ける。
2 学期	○学び合いを通して、多様な考えのつながりを自分で見付けることができる。	○学校がよりよくなるために自分の役割や責任を自覚し、状況を判断して、最もよい行動を選択できる。	○運動の目的、健康安全の目的を理解し、自分の生活を見直すことができる。

本校の子どもの実態を踏まえ、目指す子どもの姿について、教務主任が中心となり全教職員で約半年間にわたり協議して整理した「稲穂小キャリアパスポート」を次のように活用している。

- ①教職員はもとより、子ども、保護者、地域住民に周知し、子育ての目標として共有する。
- ②学期始めに、子どもの目標づくりの根拠として活用し、学期末に振り返りを行う。

この取組により、子どもたちは具体的な目標をもって学校生活を送り、学校、家庭・地域は、子育ての方向性を共有し、一体となって子どもの成長に関わることができるようになった。

(2) 学力向上の取組

稲穂小学校では、学校の教育活動において、学力向上は最も重要であると考え、全教職員が一丸となって取り組んでいる。

特に、4月に実施される全国学力・学習状況調査は、全教職員で自己採点、分析を迅速に行い、課題となる学習内容等を明確にし、課題に関連する各学年の学習内容について効果的な指導方法を目指し、授業改善を進める校内研究を進めている。具体的には、課題となった学習内容について次の研究の視点で授業改善を進めている。

- ①単元計画の工夫により、見通しをもった学習を支える。
- ②交流の仕方の工夫により、自力追究後、他者の考えや価値観に触れ、自らの考えについて、見方・考え方のより一層の向上を目指す。

また、放課後学習「学ビー」として、子どもたちが主体的に自分の学習やチャレンジテストを行っている。今年度から、教職員に加え学校サポーターとして、保護者・地域住民の力を借りて、子どもの学習の見守り、採点など、学校と家庭・地域が一体となって子どもの学びを支えている。



【全教職員で採点・分析作業】

(3) 体力向上の取組

本校では、1年に一度実施していた「新体力テスト」について、今年度から6月と10月の年に2回「体力フェスティバル」として、子どもたちが体育の時間を活用して新体力テストの8種目に挑戦することができるようにした。

さらに、学校サポーターとして延べ約150名の保護者・地域住民の力を借りて、各種目の運営や測定を子どもたちのサポートをお願いし、子どもたちの体力向上を支えた。

また、児童会保健体育委員会が体力向上週間を設定し、個人として課題の運動の克服に子ども自ら運動に取り組むことができるように工夫した。



【サポーターによる測定の支援】

3 おわりに

本校は、これまでの歴史の中で、学校と家庭・地域が連携し、子ども一人一人に知・徳・体のバランスの取れた資質・能力を身に付けさせる教育活動を進めてきた。今年度、コミュニティ・スクールを導入し、一層、強固な学校・家庭・地域の連携・協働体制が構築されている。

今後も、「子どもたちに資質・能力を身に付ける」という観点で、全ての学校の教育活動を真摯に見直し、真に知・徳・体のバランスの取れた人材の育成に邁進していきたいと考える。